

Action Book

2019年度 活動のご案内 (2019.4.1~2020.3.31)



ひとりがよくなると 世界はきっとこう変わる。

ひとりが「よくなる」と、どんなコトが起きるだろう。

ひとりが「よくなる」と、その人と出会った誰かがうれしくなる。

つまり、その人もきっと「よくなる」。

そして「よくなる」の繰り返しは

社会や世界をよりよく変えていくチカラになると思うのです。

その人と出会った誰かが「よくなる」

そんな出会いとつながりを

YMCAはこれからも大切にしたいと考えています。

「よくなる」の連鎖は

やがて社会や世界を変えていくチカラとなっていく。

そしてきっと平和を形にしていく原動力となっていく。

ひとりが「よくなる」と、 どんなコトが起きるだろう。 YMCAと出会ってみませんか？

Encounter

みつける

あなたが、したい何かを「みつける」ために。

プログラム

YMCAは、多様なニーズに応え、
幅広いプログラムを展開しています。



Contact

つながる

あなたが、「つながる」誰かを探すために。

活動拠点

YMCAは、家族、コミュニティ、全国、世界の人びととの
「つながり」を大切にしています。

Transform

よくなっていく

あなた自身の人生がもっと

「よくなっていく」ために。

かけがえのない場所として

これからの世界に不可欠な、かけがえのない場所。
YMCAは、そんな場所になりたいと願っています。



巻頭言

2019年度もYMCA活動へのご理解と多大な援助、助言をいただきまして心より感謝申し上げます。
さて本年度は予想だにできなかったコロナウイルス禍に見舞われ、社会全体の日常が奪われ、回復が困難となるような毎日が
続いております。

この状況下において、学童保育以外の事業の中止を余儀なくされ、一時期はYMCAの存続も危ぶまれる状態でしたが、ワイズ
メンズクラブの方々やYMCA会員のご寄付、公的資金の給付や融資でなんとか乗り切ろうとしております。幸い学校関係や商
業活動も危ういながら再開されほんの少し明かりが見えたようにも思えますが、まだまだ予断は許せない状況が続くもの
と思われまます。

このようなときこそ社会的弱者に救いの手をさしのべられる活動を充実できればと考えます。
コロナ禍は近い将来収束するときに必ずやってくるでしょう
しかしその後の社会は大きく変化しているでしょう、YMCA活動も多くの試行錯誤を経て次の世界に進んでゆかねばなりません。

今後変わってゆくであろう社会に適合しなければならず、特に子どもたちとユースボランティアリーダーたちとのマッチング
は重要課題です。

今後ともこの組織を見守り、ご支援をお願いいたします。
皆様方もご自愛なされ、ご健勝にお過ごしください。

滋賀YMCA理事長 久保田正紀



2019年度より祝部前総主事の後を受けて総主事に就任をいたしました。
これまで積み重ねてきたYMCAの働きをベースにしながら新たな挑戦のスタートを切らねばならないと責任を感じており
ます。

世の中の変化は凄まじい速度で進んでいます。正直言って滋賀YMCAはある部分この時代の流れに後れを取ってきたと実
感しております。ウェルネスと国際教育の会員数の減少は財政を苦しいものにしていきます。しかし、滋賀YMCAには若い
ボランティアの力がみなぎっています。ベテラン会員の皆さんがYMCAに常に心を寄せてくださっています。リソースとエネ
ルギーはまだまだ捨てたものではありません。

これらの力を生かして、社会の動きを確実にとらえながら社会に求められる働きを進めてゆかねばならないと思います。
既存のやり方だけではなく、新たな取り組みを進めてゆくことでYMCAに所属することに誇りを持っていただけるYMCAに
今また戻らねばなりません。

2019年度、学童保育を新しい事業として組み立て、新たなスタートを切りました。
ここからがスタートです。力をつけて、勢いをつけて次の年度へ走ってゆこうとしております。2019年度の皆様方の支援に
心より感謝申し上げます。
次なる2020年度に向けても多くのご支援をいただけますようよろしくお願い申し上げます。

滋賀YMCA総主事 久保田展史



2020年度滋賀YMCA年間聖句

「恵みの業をもたらす種を蒔け。愛の実りを刈り入れよ。
新しい土地を耕せ。主を求める時が来た。」

旧約聖書ホセア書第10章12節

(2020年3月18日理事会決定)

滋賀YMCAの使命

滋賀YMCAは、神がイエス・キリストに示された愛と奉仕の行き方を多くの人とわかち合い、「正義と平和の喜び」の共生社会をきづくことを目指します。

1. 人間の自由と権利を守り、平和と正義の実現に努力します。
2. 「いのち」への共感をひろげるため、生命と自然と文化を守ります。
3. 愛と理解と寛容の地域社会をもとめ、苦しみと痛みの中にいる人に仕えます。
4. 子どもたちの〈こころ〉と〈からだ〉の限りない成長のために努力します。
5. 地域の人びとと共に「生きることの質」をたかめ合う場と機会を提供します。

contents

巻頭言／2020年度滋賀YMCA年間聖句／滋賀YMCAの使命	4～5
2020年度滋賀YMCA事業計画	6
1. 子どもに寄り添う事業の展開	8
2. ユースエンパワーメント	9
3. 人間力を豊かに広げ、健やかな生活を支える活動を行う	10
4. 地域社会の問題に取り組み支える活動を行う	11
5. 健全な財政運営を行う	12
6. キリスト教精神を大切に事業に生かす	13
2019年度滋賀YMCA事業報告／2019年度滋賀YMCA年間聖句	14
ウエルネス事業(健康教育)	16
野外活動事業	19
文化・生涯学習事業	21
語学・教育事業	22
発達支援事業	23
国際交流・国際協力事業	24
リーダートレーニング・リーダー会活動	25
学童保育事業	27
第4回滋賀YMCA インターナショナル・チャリティーラン2019	29
会員活動	29
DATA 2019	33



2020年度滋賀YMCA事業計画

2019.11.13理事会 2020.03.25評議員会

2020年度新しい滋賀YMCAの展開には、既存事業全般特にウエルネス事業の弱体化という現状があり、それを打開すべく学童という新規事業の実施を2019年度より試みている。新規事業を起爆剤に新しい展開を行う絶好の機会である。しかしこの事業に頼るだけではなく、学童事業との協働による各事業発展のアイデアを生み出したい。今後の展開では、やはり人口8万人に満たない近江八幡であるため、近江八幡市のみでYMCAを展開するには限界がある。近江八幡市を中心に滋賀県に活動を広げてゆく行為を怠ってきたことが、南部の草津・大津地域の会員を失ってきたことではないか。これからの展開に明らかに大津市を遠く眺め、その中途にある人口の増加地域である草津・大津・守山・栗東を望まなければ発展はないと考える。幸いにスタッフとして多くの人材を得た2019年・2020年であるので一人一人の能力を最大限に生かしたYMCA力を高めた展開としたい。

1

子どもに寄り添う事業の展開

ウェルネスの考えのもとに子ども達の心身の発達をはぐくみ、生命の尊さ仲間の大切さを学ぶ活動を野外キャンプ活動・体育活動を通して展開する。そのことを通してYMCAへの信頼を増す取り組みを行う。

- ① 体育活動・野外活動はYMCAのブランドの再構築に伴う各事業の展開を見直し、地域のニーズにこたえ、多くの参加者が得られる活動を展開する。また新たに草津地域への展開を模索する。



- ② 学童保育を通して地域の福祉を担い、子ども達の豊かな発達の機会を与える。

- ③ 子ども達の活動を通してYMCAの願いを広く発信して社会の信頼を得られる努力を惜しみなく行う。

「笑顔になあれ、優しくなあれ、心豊かになあれ、そして大きなあれ」と銘打ち、救世YMCA（近江八幡市蓮花町）が今年から学童保育「Yプラス」をスタート。夏休みなどはキャンセル待ちが出るほど盛況だった。地域の特徴を保育に取り入れ、公立の学童保育との共存を模索しているという。

（土屋廣代）

救世YMCA編纂部子ども・青少年同による。県内には、学童保育を利用する小学生は5月1日現在、1万3308人で5年前から約9000人増加。市や町、社会福祉法人などが運営する施設も353か所と7か所増えた。民間も数年前から参入し、今では約10か所にのぼる。

救世YMCA編纂部の久保田史さんは「働くお父さんや、社会進出を目指すお母さんが安心して子どもを預けて働け、子どもたちにも充実した時間を持ってもらうための助け」と言い、「公立の施設に協力す

学童保育きめ細かく

滋賀YMCA「Yプラス」

ることができれば」と語る。

対象は小学1～6年生で、定員45人。市内の5小学校に下校時、バスで児童を迎えに行く。到着後に各自が入室を保護者にメールで知らせる、カードを使ったシステムを導入。仕事中の保護者も子どもの無事を確認できて安心という。さらに、途中の入退室にも対応している。

平日には、県内の大学生が「学習サポート」を行い、学校での授業の復習を通して学力の定着を図り、児童に朝顔や白菊学習

を促す。おやつや自由遊びの時間も設定している。

10月からは「土曜日コース」もスタート。土曜日のみの利用もできる。「学習サポート」の後、カナダ国産のネイティブスピーカーのスタッフが知り、生活の中で自然と英語で話せる機会を作る。

併設の教室も無料で受講でき、「書道」（月曜日）のほか、「ボルトガル語」（火曜日）は地域に多い日系ブラジル人との交流を図り、「英会話」（水曜日）は耳から学ぶフォニックスを取り入れ、子どもたちが楽しく学ぶことができる。

久保田さんは「当初は笑顔が少なかった子どもが、徐々にほづろつとした表情になり、それが何よりうれしい」と話す。

2 ユースエンパワーメント

若者が生きいきと活動をし、新たな出会いと学びによって人間力を養い、将来にわたって地域社会を支える人材として成長する機会を作る、ユースエンパワーメント。

①リーダーの指導者としての資質を磨くとともに、社会の現状を理解して問題意識を持てる幅広い人間力を持つ青年を育成する。



②在日外国人との交流や病児とその家族の支援などの機会を設け、青年として幅広い視野と問題意識を持てる機会を作り出す。

3 人間力を豊かに広げ、 健やかな生活を支える活動を行う



①豊かな感性を磨く音楽教育活動を活発化し、多くの受講者を得る。また発表の場や交流の場を他の事業との合同で工夫して、練習の成果を発揮することで喜びを広げるように工夫する。



②英語教育やポルトガル語の受講者を増やすとともに国際感覚の持てる事業を行う。



③学童保育の保護者に向けて、「子育て」「女性の社会進出」をキーワードに女性が生き生きと生活し、社会で力を発揮できる機会を支援する。



④高齢者を対象とした福祉旅行を実施する。

4 地域社会の問題に取り組み 支える活動を行う



①「インターナショナル・チャリティーラン」実施を通して発達障がいや障がいのある子ども達や新たにスタートする病児の支援を社会に広く求めYMCAの働きをアピールする。



②外国から日本を訪れ働く人々とその子ども達を支援する活動を作り出す。まず学童保育の「ポルトガル語」をきっかけに日系ブラジル人の方々との交流を作り出す。



③技能実習生を中心に地域で働く外国人の日本語教育に着手する。



④学童保育を發展させることで地域の子育てに貢献をする。



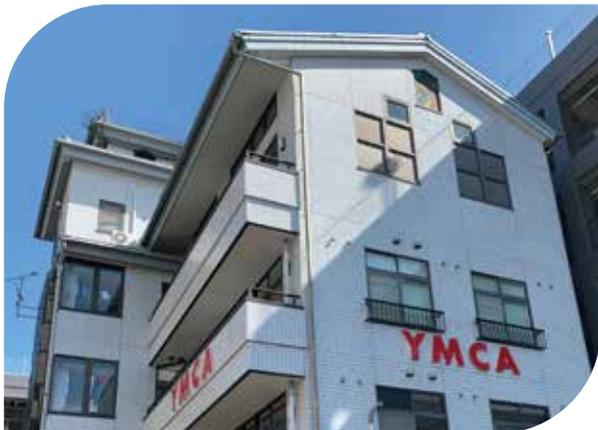
⑤病児の支援、病児を持つ家族の支援を行う。



⑥地元企業等と協力した地域貢献を模索する。

5 健全な財政運営を行う

① 収支のバランスを常に考え、確実に収益を確保できる運営を行う。



② 寄付金や外部資金の積極的導入。

③ スタッフ一人一人が採算を考えた運営ができるようにする。

「滋賀YMCA」3月に創立70周年

思いやりに満ちた心の成長、より良い地域社会を目指す「滋賀YMCA」（近江八幡市園町）は3月5日に創立70周年を迎える。今年、高齢化社会に即した「福祉旅行」をスタートさせ、外国人労働者の増加に対応して「日本語教室」も開講する。未来へ向け、時代に向けた様々な取り組みを行っている。
（土屋順代）

1950年に設立された前身の滋賀YMCAが86年に「財団法人滋賀YMCA」を設立。翌年、近江八幡YMCAと合併し、現在の「滋賀YMCA」となった。これまで国際交流や福祉活動、語学教育、野外活動など地域に根ざしたプログラムを企画してきた。

「お互い歳を重ね、優しい社会になることを願う」と船主の久保田史さん。その思いから今年、互恵や情愛がなければ計画しづらい要介護者やお年寄り向けの「福祉旅行」をスタートさせた。大別して3プランを用意。要介護者が家族と楽しむプランでは、介護者が駅まで迎えに行き、バリアフリーの船に宿泊。体調に合わせて食事や家族らと共に楽しめるよう設備に応じて計画する。デイサービス施設などの日帰り旅行や遠足を考えるプラン、ほかにサービス付高齢者住宅に居住する人を対象にしたプランも打ち出す。

「高年齢と日本語教室」を始める

「外国人を対象に「日本語教室」も開講

国内で外国人を雇用する企業が増加しているのに伴い、4月からは外国人を対象に日本語教室も開講する。久保田さんは「外国人に日本を好きになってもらい、日本人と共に良い地域社会を作り上げたい」と語る。

2コースを設け、「日本語能力試験対策コース」は国際交流基金と日本国際教育支援協会が運営し、5段階（N1～5）のレベルがある日本語能力試験に対応。4～6月に「N2受験コース前期」と「N3期」、9～11月に「N2受験コース後期」と「N3期」を開講。他のコースは相談に応じる。

企業の営業時間によって企業内や同YMCAで教室を開講する「企業日本語コース」も設け、企業のニーズを丁寧に聞き、職場で求められる日本語能力の習得を目指す。さらに日本語能力試験にも対応。また、日本語教師資格を取得した指導者の登録システムも設置している。

いずれも問い合わせは「滋賀YMCA」（0748-33・3420）へ。

6 キリスト教精神を大切に事業に生かす

①YMCAのキリスト教精神を積極的にアピールする。



②祈りの時を大切にする。



③近江八幡YMCAの創設者であるヴォーリスを大切に扱い、近江兄弟社との精神面での連携も模索する。

懸命にプレーする選手たち(野洲市北桜・希望が丘文化公園)



家族に感謝 子らスポーツ白熱

「勤労感謝の日」の23日、小学生のサッカー大会「サンキューカップ」(滋賀YMCA主催)が、野洲市北桜の希望が丘文化公園で開催された。子どもたちはサッカーをできる環境に感謝して試合に臨んだ。

滋賀YMCAで活動している約60人の学生たちが企画した。近江八幡市の会場ではバスケットボール大会も行われた。

サッカー大会は県内中心

野洲などで「サンキューカップ」

に12チームが出場し、小学4～6年の学年ごとに4チームのリーグ戦で、白熱した試合を繰り広げた。

参加した選手が周囲の人に「ありがとうカード」を渡して感謝を伝える企画もあった。彦根市の城陽小5年近藤廉君(11)は「車いす生活をしながら面倒を見てくれるお父さんと、支えているお母さんにありがとうと伝えたい」と話していた。

(原田大輝)

京都新聞滋賀版(2019年11月24日付 朝刊)



2019年度滋賀YMCA事業報告

2019年4月1日～2020年3月31

2019年度 滋賀YMCA年間聖句

「わたしは羊のために命を捨てる。わたしには、この囲いに入っていないほかの羊もいる。その羊をも導かなければならない。その羊もわたしの声を聞き分ける。こうして、羊は一人の羊飼いに導かれ一つの群れになる。」

ヨハネによる福音書第10章15～16節

日本は高齢化と人口の都市集中、地方の人口の減少と言われていています。しかし滋賀県は少ない人ながらも人口が年々増加している県であります。しかも乳幼児の人口も横ばいから少し増加するという状況となっています。近江八幡市も人口が増加しており、共働きが増え、学童保育には子どもがあふれている状況です。今年度これらを解決し、子ども達に私たちYMCAだからこそより良い成長の機会を提供できると新たに学童保育を開始しました。初年度である今年度は人数は多くありませんでしたが、既にお入りいただいている皆さんから大変好評を得ております。この評判は確実に広がっており、将来を期待できます。

滋賀県には多くの外国人が就労しています。今や日本の社会経済活動の重要な支え手となっていることは明らかです。全国に多くの日本語学校を有しているYMCAの評判を生かして新たな事業として外国人の日本語教育に取り組む準備を始めました。

高齢化社会が進み、多くの方たちが介護しなければならない親を持ち、多くの方が将来の社会に対して不安感を抱いています。リタイアをされた方々が第2第3の人生をいかに豊かにしていくか、このことにも私たちが関わる意味があると考えていて、高齢者の家族が心豊かになるような福祉旅行の事業を展開しようと準備を進めてきました。

また、重い病気と闘っている子ども達を支援することも新たな若いボランティアを得ながら進めようと準備をして、2020年度から滋賀医科大学附属病院での活動をスタートする準備が整いました。

残念ながら2月末よりのコロナウイルスの脅威によってこれらの事が頓挫している状況ではあります。しかし滋賀YMCAには多くの若いボランティア、そしてエネルギーにあふれた若いスタッフが得られています。私たちの両手はすでにスタートラインに置かれ、すぐにでも号砲とともに走り出せるエネルギーを有しています。この年度の最後はコロナウイルス渦に見舞われましたが、暗いニュースだけでなく明らかに明るい未来がみえているのです。今年度の結果に対して心からお詫び申し上げます。しかしながら次なる飛躍をぜひご期待いただけたらと思います。

総主事 久保田展史

ウェルネス事業（健康教育）

スポーツを通して「子どもたちの全人的な成長」を、YMCAに通うことで「生きる質の向上」を、それがYMCA ウェルネスプログラムの願いです。

滋賀YMCAではプログラムを通し、一人ひとりの全人的な成長を促し、健やかな心と身体を育み、いのちを守ることの大切さを学びます。

また、競技の技術向上だけでなく「挨拶」や「整理整頓」など日常生活での大切なことも指導しながら運営を行っています。

バトントワリング

バトントワリングクラスは、発表会やイベントの出演に向けて技の練習や振り付けなどを毎週練習に取り組んでいました。

出演イベントとして初めての出演になった「草津ちびっこクリスマス」や恒例となっている「近江八幡市民クリスマス」などでステージ発表することができました。年度末には発表会を実施し、1年間の練習の成果を家族や地域の方の前で存分に発揮しました。発表会での新たな取り組みとして、1つの演技の「振り付け」や「曲」などの演技の構成を6年生中心に子どもたちだけで考えたことです。

練習の成果を大勢の観客を前に披露することは、子どもたちの目標を作ることやモチベーションを高く保つためのとても大事な機会です。今後もそのような機会を大切に、増やしていけるように展開していきます。

小寺智也



サッカークラス



幼児年中～小学生を対象に近江八幡・彦根地域で、約130名が在籍していました。

2019年度はOJFL（近江八幡スポーツ少年団リーグ）優勝や近江八幡市の夫婦都市である静岡県富士宮市で開催される「富士山カップ」に市を代表して2年連続出場することを目標に日々の練習に取り組んでいました。

週末には対外試合を行い、平日や土曜日の練習で改善・向上をする、というサイクルがうまくできるようになりました。そのため子どもたちの目標がはっきりとして、高いモチベーションで日々の練習に取り組むことができました。

また、今年度からは滋賀YMCAチームとして近江八幡と彦根の子どもたちが一致団結して対外試合や大会へと臨みました。お互いに切磋琢磨することで全体のレベルアップにつながりました。

その結果、目標としていた富士山カップに出場することができました。全国のレベルの高いチームとの試合で多くの刺激を得ることができました。

市の代表を務めるなどチームのレベルアップもできたこともあり、近隣スポーツ少年団だけでなく県外のチームとの対外試合も増えてきました。

また、大会や対外試合、通常練習の他に、全サッカーメンバーでのサッカー合宿を春・秋の2回、夏のサッカーキャンプ、小学校卒業生を祝うサッカーフェスティバルなどの特別プログラムを実施し、滋賀YMCA全体でサッカーを楽しむ気持ちや、楽しいサッカーを作り上げる気持ちを育む時間を大切に取り組んでいました。

地元のスポーツ少年団や技術向上中心のクラブチームとは違うYMCAサッカーらしさを常に見つめ直し、子どもたち一人ひとりに寄り添った指導、保護者との関わりを大切に、子どもたちの心と身体の成長も共に見守っていきたいと考えています。

國宗賢太郎

バスケットボールクラブ



バスケットボールクラブは結成5年目を迎えました。バスケットボールはYMCAで生まれたスポーツです。

2019年度は能登川にクラスを集約しました。練習内容の見直しを行い、「シュート」や「ドリブル」などのテーマを絞り、2～3ヶ月を1つのくりとして、集中的に練習を行いました。

また、子どもたち自身が成長を感じることで一つのテーマが始まる最初と最後の練習日にスキルテストを行いました。頑張って取り組んだ事が可視化できたので、子どもたちのモチベーションの向上につながりました。

通常練習以外に春・秋に2回サッカークラスと合同で合宿を実施いたしました。秋の合宿では京都府にある花背山の家を初めて利用し、自然に囲まれた良い環境で合宿を行う事ができました。夏に風の谷キャンプ場でキャンプを行い、寝食を共にする事でチームメイトとの仲を深める時間を作る事ができました。

また、冬には神戸YMCA主催の大会に出場し、中西日本地域のYMCAチームと試合をすることができました。大会を通じて、他のYMCAにも滋賀YMCAの良さをアピールすることができました。



滋賀県内の地域のチームとのつながりも増えてきました。今後は日本バスケットボール協会のリーグ戦や大会への出場を目指します。今後もより実りある活動を目指して進めていきます。

小寺智也

体育クラス

体育クラスでは、運動が得意な人も苦手な人もみんなが一体となって運動を楽しみます。幼児年少クラス、幼児年中～年長クラス、小学生クラスの3つの年齢に合わせたクラスを展開しています。幅広い年齢層に対応できる指導者がいるので、保護者の方にも大変良い評価をいただいています。

幼児クラスでは、「遊び」を中心に走る・跳ぶ・鉄棒・マット・跳び箱などの運動を取り入れながら、楽しく体を動かしました。一つの種目に絞らず様々な運動を行うことで基礎体力や基本的運動能力の向上を目指しました。

小学生クラスでは「ボール運動クラス」、「器械運動クラス」の2クラスを展開しました。種目を分けることによって、子どもや保護者の興味や願いによってクラスを選択することができます。一つひとつの種目の技術の習得やより丁寧な指導を行うことができました。

2019度からは会場を桐原体育館に移し、大人数でのクラス運営が可能となりました。広い空間で運動をすることができるので、よりダイナミックに運動を行うことができます。

スケールメリットを生かし、今後も仲間と身体を楽しく動かすことによって生まれる価値を大切にしながら指導を行っていきます。

小寺智也



ウェルネス事業(健康教育)

サッカー	会場・場所	日程	参加数
サッカー合同合宿(春)	あざいカルチャー&スポーツビレッジ	5月25日～5月26日	27人
中日本YMCAサッカー大会	J-GREEN堺	8月5日～8月7日	14人
富士山カップ	静岡県富士宮市	8月9日～8月12日	14人
サッカー合同キャンプ	風の谷キャンプ場	8月19日～8月20日	28人
サッカー合同合宿(秋)	京都府花背山の家	11月23日～11月24日	50人
京都YMCAドリームカップ	福井県	2月22日	30人
サッカーフェスティバル	文芸の郷グラウンド	3月20日	32人
その他、対外試合等、年間50日間あり			

バトントワリング	会場・場所	日程	参加数
草津ちびっこクリスマス	草津	12月7日	8人
近江八幡市民クリスマス	G-NETしが	12月14日	8人
年度末発表会	近江八幡	4月4日	8人

バスケットボール	会場・場所	日程	参加数
バスケットボールクラブ合宿(春)	あざいカルチャー&スポーツビレッジ	5月25日～5月26日	5人
バスケットボールクラブ合宿(秋)	京都府花背山の家	11月23日～11月24日	15人
バスケットボール中西日本YMCA大会	兵庫県立総合体育館	2月8日～2月9日	5人
バスケットボールクラブ卒団式	安土マリエート体育館	3月20日	10人
その他、対外試合等、年間15日間あり			

ウェルネス合同プログラム	会場・場所	日程	参加数
ウェルネスキャンプ	風の谷キャンプ場	8月19日～8月20日	6人

*ヴォーリズ学園ひかり園、金田東保育園、安土保育園への運動遊び指導へスタッフ派遣をしています。



野外活動事業

野外活動クラブ



滋賀YMCA野外活動クラブは、「かいつぶり(幼児年中～小学2年生)」、「LAKEびわ(小学3年生～5年生(初参加))」、「Mt. いぶき(小学5年生～6年生)」、「Jrリーダーズ(中学生～高校生)」の学年別4チーム編成に変更をし、それぞれ1年間を通して野外活動を行いました。

野外活動クラブは今年100年を迎えるキャンプの歴史の延長線上にあります。

大切にしたいことはダイナミックな自然に出会いその雄大さに感動し、生き抜く力を養うこと、挑戦し工夫し達成感を味わうこと、大いなる自然に出会うことによって命の大切さを知ること、そして何より我々が大切にしたいことは小グループに分かれた生活形態のキャンプと同じく、小グループに分かれて社会性を養うことです。1年間同じメンバーでのグループには一人の指導者がつき添い、子どもたち一人一人が仲間を大事にし仲間のことを思いやり



自分が認められることの喜びに気付く、そのような人間関係構築の力を育てる導きをしてゆきます。2019年度はキャンプとの棲み分けを明確にし、定置でのキャンピングはサマーキャンプに任せ、より活動的なプログラムの展開へと挑戦をしてきました。幼児から小学校低学年のチームでは自然に対する驚きや発見、そのことによって自然に興味を持つことをねらいました。小学校中学年では、協力をして自然の中で生活をしたり探索や挑戦をしたりすることで自らの達成感とともに、自然の大きさを肌で感じ、自然への興味を高めることを狙いました。小学校高学年と中高生では、より一段と高いレベルを目指し、自然の克服と共存、そして挑戦をテーマにプログラムを展開してゆきました。いずれの活動も小グループでの協力のもとに行います。仲間と一緒に頑張れたこと、一緒に時を過ごせたことへの感謝、そして自然によって生かされていることへの気づきと感謝に発展することを願って今年度も活動を展開することができました。

國宗賢太郎



シーズンキャンプ



夏期キャンプは「滋賀YMCA教育キャンプ場～風の谷キャンプ場～」をベースに展開しています。風の谷キャンプ場は犬上郡多賀町の山間に位置し約80人が一度に収容可能なキャンプ場です。昔ながらのテント泊を基本として生活を行い、池でのカヌー・イカダ、近くを流れる川での川遊び、そして木々に囲まれてのキャンプファイヤーなどのプログラムが大変人気です。長きにわたってたくさんのキャンパーに親しまれてきた風の谷キャンプ場は、生誕22年になり、今もなおたくさんのキャンパーを迎え入れています。

2019年度は風の谷キャンプ場を利用したキャンプのスタイルを大きくリニューアルしました。キャンプが始まると子どもたち自身でテントを設営し、居住空間を整えます。キャンプの基本である、「生活を工夫すること」を身をもって体験することができました。

新たなスタイルをより強固に確立していくために、キャンプ場も少し様式の変更が必要となってきました。長期的な視点を持ち、今後も子どもたちの成長に寄り添い続けることができるキャンプ場にしてゆきたく思います。毎年、たくさんのボランティアがキャンプ場の開設ワークに関わり、また費用面でご協力等いただいて今のキャンプ場があります。日々のお力添えに感謝し、これからもより良いキャンプ運営に尽力いたします。



冬期キャンプはスキー、スケートなどのウインタープログラムが大変人気です。今年度は「ウインタースポーツのメッカ志賀高原」で行う志賀高原スキーキャンプを京都YMCAと合同して行いました。リーダートレーニングから滋賀 - 京都の合同で行い、スキー指導やキャンプ運営に関して改めて学びを深め、キャンプに向けても良い準備ができました。

スキーキャンプの中では子どもたちの努力や身に付いた技量、次への目標を示すための、ワッペンテストを導入しました。ワッペンテストは子どもたちにとっても大きな目標となりました。テストに向けて、レッスン中にみんなでアドバイスし合い上達を目指そうとする姿、テスト本番で緊張しながらも懸命に滑走する姿、またそれを必死に応援する姿はYMCAのスキーキャンプを象徴するものでした。



*夏期キャンプとして、ノゾミ保育園のディキャンプ指導、八王子保育園のキャンプファイヤー指導へスタッフ派遣をしています。

國宗賢太郎

文化・生涯学習事業

文化・生涯学習クラスでは、幼児からシニアまでの幅広い層の方を対象とし、人間力を豊かに広げ、健やかな生活を支える活動を行うことを目的として、生涯を通していきいきと学べるプログラムを提供していきます。

あなたがやりたい何か「みつかる」ために
あなたが「つながる」誰かと出会うために
そして、あなたの人生がもっと「よくなっていく」ために



音楽倶楽部

ピアノ・ヴァイオリン・フルート・ギター・ウクレレのクラスがあり、初級から上級まで一人ひとりの個性やペースを大切に楽しくレッスンをを行っています。

子ども時代に豊かな感性を育むため、音楽をより身近に感じることができるよう生の音楽にふれる機会として、夏休みに学童Yプラスの子ども達を対象としたヴァイオリンの体験会を実施しました。(参加者:21名)ヴァイオリンのクイズや先生の素晴らしい演奏を聴いた後、一人ずつ実際にヴァイオリンを手にとって構え方、音の出し方を教わりました。これを機に音楽や楽器に興味をもち、いつの日か美しいものに対する感性を育むきっかけとなることを願っています。

日頃のレッスンの成果を発揮する場として、安土文芸セミナーにて10月13日、音楽倶楽部発表会「秋のコンサート」を開催しました。和やかな雰囲気の中、幼児からシニアの皆さんの熱意のこもった演奏が披露され、観客からは温かい拍手が送られました。今年度は開会演奏としてJ.S.バッハの「G線上のアリア」や「トッカータ」のパイオルガンの演奏をみんなで鑑賞しました。心に深く響く荘厳な音色に日常を忘れ、音楽をゆっくりと楽しむひとときとなりました。会員全体でみるとクリスチャンでない方が大部分を占めているのが現状であり、このような機会に教会音楽の雰囲気を感じていただき、YMCAらしさをアピールできればと考えています。

こども書道教室

こども書道クラスの子ども達12名に加えて、今年度より開講した学童Yプラスの8名が参加し、和気あいあいとした大変賑やかなクラスとなりました。小学1年から6年まで、在籍している学年は様々ですが、高学年の子ども達が自主的に低学年のサポートを行うなど、同じ書道クラスに集う仲間としてのつながりも大切にしています。

第59回滋賀県書き初め展覧会では、見事、金賞を受賞、滋賀県書道協会発行の「書の友」でも優秀作品として掲載され、日々の積み重ねが着実に力となっていることを実感しています。また基礎的な練習だけでなく、文字を書くこと自体の楽しさを感じるプログラムにも積極的に取り組みました。

箒のような太い筆を使って、一人一画ずつリレー方式で大きな文字を書いていきます。子ども達は真剣な表情で心を込め全身を使って筆を加えていき、ダイナミックで勢いのある大きな作品が完成しました。



大人のためのクラス

音楽倶楽部・パソコン・初めての源氏物語・朗読教室

人間の脳はいくつになっても学ぶことで成長し続けるといわれています。頑張って練習することで好きな曲が弾けるようになったり、パソコンでできなかったスキルが使えるようになったり、新しい知識や経験を得ることで、また新たな世界が広がります。YMCAでは、日常生活を楽しく豊かに過ごすための主体的な活動の場を目指していきなしたいと思います。

川瀬由起子

語学・教育事業

Language School

ポルトガル語クラス開講

ポルトガル語に親しむことはもちろん、ブラジルやポルトガル語圏の習慣や文化あそびを楽しく学ぶコースです。地域には多くの日系ブラジル人の方たちが暮らしています。彼らとよりよきコミュニティを作りだしていくためにも、また世界に広く目を向けて欲しいと願い開講いたしました。8人の子ども達が学び、次年度には2クラスに拡大をする予定です。

やさしいポルトガル語(夏期)

8月5日～9日の5日間、小学生を対象に開講いたしました。ポルトガル語の数かぞえ、子どもの遊びや歌を学んで、楽しくポルトガル語に親しむ講座でした。



English School

小学生英語英会話クラス

初級クラス(1年～3年生)の授業時間を50分に設定しました。「聞くこと」「話すこと」に重点を置き、外国人講師が指導しました。継続の中級クラス(4年～6年生)は、従来どおりの80分設定で日本人講師と外国人講師が指導しました。英検Jr(児童英検)と併せて、英検を受験する生徒には受験対策を行いました。

楽しいフォニックスと英会話(夏期)

7月30日～8月3日(5日間)で小学生を対象にAクラス(1年～3年生)とBクラス(3年～6年生)を開講し学童の子どもたちと一般の子どもたちが参加しました。

中学生クラス

簡単な情報や考えを理解して、自分でも表現したり、伝えたり出来るコミュニケーションの力を伸ばすことを目的に外国人講師が指導しました。

英文法学習希望者には、日本人講師がプライベートレッスンを行いました。

高校生クラス

プライベートレッスンをを行い、外国人講師が英文学の指導を行いました。

成人英会話クラス

コミュニケーションの力は、グループの中で自発的かつ積極的に話すことにより養われます。各クラスでは、少人数の利点を生かしコミュニケーションの楽しさを体験しました。

教育機関委託事業・企業委託事業

幼児から成人まで、幅広い年齢層を対象に、教育機関や企業と連携し、地域社会のグローバルな人材育成のために支援を行いました。

ヴォーリズ学園ひかり園、そらの鳥こども園、近江兄弟社高等学校国際コミュニケーションクラス、近江高等学校、タキイ種苗株式会社と継続的に連携して指導を行いました。

リーダーOPに協力いただき、小学生教員を対象にした英語指導者養成講座の可能性を検討しました。



徳田 望

発達支援事業

発達支援プログラム

滋賀YMCAでは発達支援プログラムが20年以上前から始まり、現在では大きく3つのプログラムを行っています。

- ①げんきクラブ(運動遊び)
- ②ポップコーンクラブ(野外活動・自然遊び)
- ③スカイブルー(学習・グループワーク)

げんきクラブには、運動を苦手とする子どもたちが多く参加しますが、子どもたちにとっても楽しく体を動かし友達と一緒に遊ぶことができることを喜びとしています。しかし、自分の気持ちをうまく表現できないことが多いため、人への接し方を学び、ルールを守って遊ぶことを学びます。これにより、できなかったことも少しのコツでできるようになり自信を持って学校での体育も行うことができるようになっていきます。今年には特に低学年の子どもたちが多くルールを守ることを中心に行いました。これから数年かけて「仲間・友達」とはどのようなものかを学んでいきます。

ポップコーンクラブはげんきクラブとは反対に小学校高学年・中学生が中心となるクラブへと成長しています。子どもたちの関わりによりグループ分けを行い対象にあったプログラム指導を行っています。自分たちで考える、調べるプログラムを入れながら自然の中での体験や発見することを楽しみとしています。中には個別指導が必要な子どもたちもいますが、一人での活動ではなくグループでの活動ができるように導き、他者との係りを増やすようにしています。

今年の活動の一つに、滋賀蒲生野ワイズメンズクラブの協力を得て、野菜収穫とリース作りを行いました。普段活動する仲間だけでなく、大人の方との関わりを学ぶ良い機会となりました。活動を通し普段関わりが少ない方との関わりを持つことで、彼らの社会性も身に付きますので、このような機会を今後も取り入れていければと考えています。

ポップコーンクラブはYMCAで活動するにあたり一番長く所属ができるクラブとなっているため、高校生まで活動を行うことができることから、クラブ内での年齢差があります。今後の課題としては小学校低学年の会員の獲得を増やし、低学年でのグループ活動ができるようになり、中学・高校へと継続した活動ができるようにしたいと考えています。

スカイブルークラスも5年目を迎え、多くは初年度より継続をしている子どもたちです。クラス内での子どもたちの所属間も高まっています。学校での学習のサポートを行いつつ、グループで取り組むプログラムも入れ協調性などを学んでいきます。このクラスについても継続者が多いため、新たな仲間を増やすことが今後の課題となっています。

今年、第4回インターナショナル・チャリティーランに3組のチームを結成して出場することができました。チャリティーランより寄付をいただきこれらのプログラムは行われています。障がいのある人もない人も共に楽しむプログラムを目的としているため、共にプログラムに参加できることは大変嬉しいことです。障がいがあるということを知られたくない方もおられ、これまでは参加をためらう方も多くいました。しかし今年には多くの子どもたちが皆さんと一緒に走ることができ、賞もいただき子どもたちの自信へと繋がりました。このように、共に活動を行うことが当たり前となり互いに認め合える関係が作れることを願っています。

今後は発達支援プログラムで子どもたちにあった学びをしつつ、他のクラスとの関わりやイベントへ参加していき彼らの活動範囲を増やしていけたらと考えています。



*この事業は、YMCA国際賛助会 (FCSC) より助成を受けています。また滋賀YMCAインターナショナル・チャリティーランから寄付を受け運営されています。ご協力いただきありがとうございます。

大黒真佐実

国際交流・国際協力事業

国際交流事業



スリランカよりワイズメンズクラブを通して日本を訪れている女性Miss. Phahani Fernandoが滋賀YMCAを訪れ、学童保育の子ども達と交流しました。彼女から子ども達にスリランカの場所や気候、文化を伝えていただき、その後体育室で一緒に遊んだり踊ったりと子ども達と仲良くなりました。子ども達にとっては知らなかった世界と出会うチャンスとなったのではないのでしょうか。

学童保育事業では開設時より、語学教室とは別に土曜の午後は英語のネイティブスピーカーを保育スタッフとして加わえ、子ども達に英語に接する機会を提供しながら言葉の壁を越えて文化を伝える取り組みをしています。今後は様々な国籍の方と触れ合うチャンスを積極的に作ってゆきます。

毎年国際協力キャンペーンとしての募金を実施しています。世界には自然災害や紛争貧困や差別によって小さくされたり、苦しい生活を強いられたいしている人々があります。世界のYMCAでは、難民の支援を行ったり、貧しい中にある青年たちの職業訓練の場を作ったり。子ども達への教育の場を提供したりとすることにこの募金を活用しています。

昨年は、豪雨災害の緊急支援募金と時期が重なったために、多くの募金を集めることはできませんでしたが。継続しなければならない大切な働きとして、これからも子ども達や会員の皆様に取り組み内容を伝え協力をお願いしていくつもりです。



中日本YMCAグローバル研修会

2020年2月1日～2日(日)於：六甲山YMCA

本年の中日本YMCAグローバル研修会はロニーアレキサンダー氏(神戸大学大学院国際協力研究科教授)をメインスピーカーに、ジェンダーについて学ぶ機会となりました。

多様性を重視しなければならないこれからの社会で、無理解の中から起こる差別や不公平を防ぐために、生きやすい社会を作るために、私たちはどのように多様性を受け入れていくのかを議論するチャンスとなりました。中日本YMCAグローバル研修会はこの形で行うのは今回を最後として、改めて「平和」をテーマにあるべき研修の形を検討してゆきます。

久保田展史

募金名	計	
2019年度国際協力募金	56,804円	日本YMCA同盟へ24,000円と被災地支援募金を全額送金 事務経費で532円支出しました。 クリスマス献金はユースボランティア育成に活用させていただきます。
クリスマス献金	25,732円	
台風19号・15号 被災地支援募金	323,413円	日本YMCA同盟へ送金
合計	405,949 円	

リーダートレーニング・リーダー会活動

リーダートレーニング

滋賀YMCAのコースボランティアリーダーは、通年を通し、①野外活動クラブ②ポップコーンクラブ・げんきクラブ(発達支援事業)③ユーススポーツ(体育・バスケット・サッカー)、④シーズン(夏・冬・春期)キャンププログラムを中心に、約60名のコースボランティアリーダーが活躍しています。

滋賀YMCAでは「メンバーファースト」「セーフティファースト」の原則にたち、コースボランティアリーダーの理論研修・実技研修をに力を入れています。リスクマネジメントや救命救急法、対象理解やグループワーク理論、組織的教育キャンプ理解などの座学研修や、夏・冬プログラムを主眼においたキャンプ生活・スキー・スケートの実技・指導法の研修、リーダー経験別に新たな知識と技術を身につけるよう進めています。



グループワーク論研修

冬の研修においては京都YMCAと合同でスキー専門委員の先生方と共にスキー実技研修会を実施しています。さらに、子どもたちと直接関わる年間プログラムの企画・計画準備・実施・評価というサイクルを繰り返し経験することで、YMCAが行う野外活動・グループワーク理論の理解を深め、リーダー自身も相手に理解してもらう説明の仕方、話し合いの方法、状況を察知し対応できる能力、他者への配慮などの力を年間通して養っています。

今後の研修においては、野外活動、発達障がい、教育関係の各専門家による研修会の実施やリーダーOPからの働きかけを強め、YMCAに関わる人とのつながりを構築していくと共に、現役リーダーの資質向上に努めていきます。また、社会情勢にも目を向け、国際平和・復興支援などの理解や興味の幅を広げて、これからの未来を担っていく人材を育てていきたいと思えます。

そして、これらのことを身につけたボランティアリーダーたちが、やがて地域社会において大きな働きを担う存在となることを祈り、今後も研修を続けたいと考えています。

リーダー会活動

滋賀YMCAで活動するコースボランティアリーダーは、毎月1回の「全体リーダー会」を持ち、研修と交流を深めています。

日頃は各所属チームごとで活動していますが、この全体リーダー会の際には全リーダーが一室に会し、自ら企画・運営し会を実施しています。

2019年度は、「視野を広げ、考えを深め、自分から発信しよう」のテーマのもとリーダーたちがやりたいこと・学びたいことから毎月企画・実行し、魅力あるリーダーになることを目標にしていました。病児への支援についてや、発達障がい児への支援、社会的な課題に対して若者にできる事は何か等、主体的に考え、行動しました。若い力に満ち溢れたリーダーたちが自らの手で、社会を何とかしたい!変えたい!と思う気持ちが、周りの人を惹きつけ、自分も他者も変革していく。まさにYMCA運動が感じられる活動となりました。



リーダートレーニング／リーダー会活動

他にも、全国YMCAリーダー研修会や年度の終わりに卒業していくリーダーのための卒業祝会などを行いました。

若いエネルギーに満ち溢れたボランティアリーダーたちが、YMCAのDNAであるユースエンパワーメントを最大限に発揮できる環境作り、居場所作りを、YMCAの強みである『人のつながり』を生かして、継続的に今後も進めていきます。

國宗賢太郎



全国リーダー研修会

リーダートレーニング

プログラム名	会場・場所	日程	参加数
宿泊研修	桐生若人の広場	4月27日～4月28日	30人
年間プログラム理論研修	滋賀YMCA	5月12日	38人
日帰り実技研修	風の谷キャンプ場	6月16日	30人
救命救急	近江八幡消防署	6月23日	34人
キャンプ場開設ワーク	風の谷キャンプ場	6月30日	43人
夏期宿泊研修	風の谷キャンプ場	7月6日～7月7日	36人
夏期プログラム撤収ワーク	風の谷キャンプ場	8月26日～8月28日	24人
全国リーダー研修会	YMCA東山荘	9月21日～9月23日	1人
グループワーク論研修	彦根勤労福祉会館	10月27日	39人
スケート研修	滋賀県立アイスアリーナ	11月16日	20人
スキー理論研修	京都YMCA	11月24日	25人
スキー宿泊実技研修	長野 志賀高原スキー場	12月13日～12月16日	13人

※全国リーダー研修会へ、谷川弘樹1名が参加。

※滋賀YMCAボランティアリーダーの内、8名が「2019年度日本YMCAユースボランティア認証」を受けました。

(機関紙「The YMCA」2020年3月号掲載)

リーダー会活動

プログラム名	会場・場所	日程	参加数
4月リーダー会(命の大切さ)	滋賀YMCA	4月12日	30人
6月リーダー会(SDGs)	滋賀YMCA	6月7日	40人
9月リーダー会(発達障がい)	滋賀YMCA	9月20日	40人
11月リーダー会(全リー研報告)	滋賀YMCA	11月29日	45人
2月リーダー会(Yフェス)	滋賀YMCA	2月21日	45人
3月リーダー会(評価会)	滋賀YMCA	3月16日	40人
卒業リーダー祝会	近江金田教会／滋賀YMCA	3月22日	50人

※近江八幡市民クリスマス12/14へ出演、レクリエーション指導。

学童保育事業

子育て家庭に求められる 学童保育ワイプラスを

はじめに、2019年度の学童保育ワイプラスの活動を無事に終えることができましたことをここにご報告申し上げます。

少子化が叫ばれている昨今、一世帯における子どもの数は年々減少傾向にあります。学童はそれに反して年々利用児童が増加し、全国的に見ても待機児童が出るほどの状態が続いています。

このように学童の利用児童が増加した背景には、女性の社会参加が以前よりも活発になり、共働き世帯が増えたことが一番の要因にあります。

近江八幡市においても、他と同様に近年は利用児童の増加が続き、学童保育施設（児童の受け皿）が不足する課題を毎年のように抱えていました。

そのような状況の中、滋賀YMCAにおいても地域の子育て家庭の役に立てることがないかと考えていた際、先述のような課題があることがわかり、学童保育ワイプラスを開設（2019年4月）し、地域の子育て家庭の支援することといたしました。

一般的に学童保育というと、地域の保護者会やNPO法人、社会福祉法人等が行政等から運営費の補助金（委託費）等をもらいながら運営しているイメージがありますが、ワイプラスは民間の学童保育施設として、行政から補助を受けない運営を選択しました。

その理由は、補助をもらうためには法律に定められた対象者（主に共働き世帯の児童）しか受け入れることができず、その他の子どもたちの受け入れは難しい現状があり、滋賀YMCAの支援の受益者が限定的になってしまうと判断したからです。

滋賀YMCAとしては、放課後の居場所が必要なのは、法律等において定められた対象者（共働き世帯等の児童）だけではないと考えています。

それは、いじめや虐待、不登校等子どもをとりまく諸問題は、共働き世帯だけにおいて起きているわけではなく、全ての子どもにおける問題であり、その子どもたちにとって、学校・家庭以外の居場所が必要であると考えています。

そのため、民間の学童保育施設にすることで、入り口（申込み）の時点で対象を限定しないようにしました。

結果として、共働き世帯だけでなく、本来の目的通り、一般の学童では利用の対象外になってしまう子どもの受け入れも行うことができました。

さて、そんな学童保育ワイプラスですが、この1年間は、「子どもたちが『行きたい!』と行っていく学童」を作り続けることにこだわって運営をしてまいりました。

学童で過ごす時間は放課後や長期休みに過ごす時間も合わせると、小学校で過ごす時間よりも長くなります。経験した様々なことをどんどん吸収していく子ども時代、子どもたちにとって学童で過ごす時間は大変貴重な時間です。

だからこそ、学童はただ単に過ごす場所ではなく、子どもたち一人一人が「行きたい!」と思える目的を持って通うことが大切だと考えています。

また、保護者の立場から考えても、子どもが行きたいと思って行く場所であれば、安心して働いたり、ご家庭の予定をしたりすることができます。

私たちは、子どもが自ら行きたいと思う学童を作り続けることは、子どもも保護者も支えられる活動になると考えています。

2019年度、6人の子どもたちとともにスタートした学童保育ワイプラスですが、保護者の方を始め、ワイズメンズクラブの方々、そしてボランティアリーダーやスタッフなどのご理解ご協力により、少しずつですが会員数を増やすことができ、長期休み中は30人を越える児童が集まりました。

また、普段の活動（農業体験や国際交流等）においてもワイズメンズクラブの方を始め、ボランティアリーダーなどのご協力により、充実した活動を行うことができました。

改めまして、学童保育ワイプラスを支えてくださった皆様に感謝申し上げます。

新保賢二



学童保育事業

プログラム名	会場・場所	日程	参加数
学童保育ワイプラス 開設	滋賀YMCA	4月1日	6人
国際交流プログラム(スリランカ)	滋賀YMCA	4月9日	6人
農業体験(サツマイモ苗植え)	滋賀YMCA教育農園	5月18日	6人
春の遠足	八幡山	5月25日	4人
第4回インターナショナル・チャリティーラン参加	希望ヶ丘文化公園	6月2日	3人
楽書き(らくがき)アート	滋賀YMCA	7月20日	5人
理科実験教室	滋賀YMCA	7月26日	16人
お泊まりY+	滋賀YMCA	7月29日～7月30日	7人
ポップおじさんのシャボン玉教室	滋賀YMCA	8月2日	23人
オリジナルどら焼き作り	滋賀YMCA	8月10日	8人
ビニールドラゴン作り	滋賀YMCA	8月15日	5人
夏の工作(段ボールサッカー盤)	滋賀YMCA	8月17日	9人
ワイプラスproject(おまつり)	滋賀YMCA	8月24日	71人
農業体験(サツマイモ堀り)	滋賀YMCA	10月26日	7人
ハロウィンパーティー	滋賀YMCA	10月30日	8人
被災地支援街頭募金	滋賀YMCA	11月2日	4人
秋の遠足	雪の山・妹背の里	11月16日	5人
クリスマスパーティー	滋賀YMCA	12月25日	15人
子ども企画プログラム	ヤンマーミュージアム	2月22日	8人
ピンクシャツデー	滋賀YMCA	2月26日	6人
思い出プログラム	滋賀YMCA	3月21日	6人



さつまいも苗植え(滋賀YMCA教育農園/5月)



秋の遠足(雪の山・妹背の里/11月)

2019年度滋賀YMCA事業報告

第4回滋賀YMCA インターナショナル・チャリティーラン2019

2019年6月2日（日）、野洲市希望が丘文化公園内、陸上競技場および周辺の特設コースにて、第4回滋賀YMCAインターナショナル・チャリティーラン2019を開催しました。

今年は車椅子での参加やご家族での参加が増えました。発達支援プログラムに参加の子どもたちもチームを組んで参加するなど、滋賀YMCAに関わるたくさんの会員や一般のランナーが集い、笑顔が溢れる一日となりました。

障がいのある方もない方も共に走り楽しむことができるのが、チャリティーランです。

皆様のご協力により1,063,608円の支援金を集めることができました。ご支援いただきましたランナー、企業、各種団体、ワイズメンズクラブをはじめ、関わっていただいた全ての方に感謝申し上げます。チャリティーランに寄せられた支援金は全国の障がい児支援プログラムおよび、滋賀YMCAが行うポップコーンクラブ、げんきクラブ、スカイブルー等の発達支援プログラムに大切に活用させていただきます。

大黒真佐実



個人ラン	37名
宣言タイム	76名（19チーム）
ボランティア	66名
その他来場者	95名

2019年度滋賀YMCA事業報告

会員活動

2019年度も会員によるYMCA活動の支援や活動が発達に行われました。

6月2日「滋賀YMCA第4回インターナショナル・チャリティーラン2019」を希望が丘文化公園陸上競技場にて、多くの会員たちが支援して開催しました。6月下旬にワイズメンズクラブびわこ部による「風の谷キャンプ場」の整備ワークが行われました。このワークによってこの夏も安全なサマーキャンプの実施準備が整いました。

12月には「近江八幡市民クリスマス」、彦根に於いての「YMCAちびっこクリスマス」がワイズメンズクラブやリーダー、リーダーOBOGなどによって開催されました。

特筆すべきは、11月2日土曜日に台風19号15号被災地支援街頭募金をJR長浜駅、彦根駅、近江八幡駅、草津駅、石山駅前5箇所に分かれ実施したことです。

びわこ部のワイズメン、サッカー・バスケットクラブ・バントワリングなどの体育活動の子ども達、学童保育の子ども達やその保護者が加わって総勢101名の会員の力が結集され、212,749円の募金を集めることができました。

2月26日には全国のYMCAと共同して「YMCAピンクシャツデー」を実施しました。これはカナダでピンクのシャツを着た子どもがいじめられたことへの抵抗とその活動の支援として始まったもので、いじめをなくそうと皆がピンク色のシャツを着てアピールしようとする活動です。

2月には2月10日には近江八幡市で創立113周年記念会員集会を行い、また3月5日には滋賀YMCA 創立70周年記念会員集会（彦根YMCA創立記念集会）を行い、会員たちが集まって創立の頃の会員たちの熱い思いを共有し新たな歩みを誓う時となりました。（次頁につづく）

会員活動

3月22日には今年度大学を卒業するリーダーたちの卒業リーダー祝会が金田教会とYMCA本館を会場に行われました。

また重い病気子ども達を支援する事業を新たに開始すべく準備を行いました。

滋賀医科大学附属病院との協議を持ち、1月には病院より春からの活動実施を要請されました。コロナウイルス感染予防のために活動開始は遅れていますが、解除後の活動がすぐに行えるようにボランティアたちが準備を行っています。

久保田展史



インターナショナル・チャリティーラン2019

プログラム名	会場・場所	日程	参加数
会計監査	滋賀YMCA	4月27日	4人
理事会	滋賀YMCA	5月15日	4人
さつまいも苗植え会	YMCA八坂農園	5月18日	15人
キャンプ場運営委員会	彦根市勤労福祉会館	5月21日	13人
定時評議員会	滋賀YMCA	5月22日	8人
滋賀YMCA第4回 インターナショナル・チャリティーラン2019	希望が丘陸上競技場	6月2日	274人
評議員会	滋賀YMCA	6月17日	13人
会員総会	彦根市勤労福祉会館	6月19日	36人
キャンプ場開設ワーク	風の谷キャンプ場	6月30日	
理事会	滋賀YMCA	7月10日	5人
職員共済会		7月15日	12人
リーダーOPキャンプ	風の谷キャンプ場	8月25日	20人
夏期キャンプ終了感謝夕食会	風の谷キャンプ場	8月27日	47人
理事会	滋賀YMCA	9月11日	5人
評議員会	滋賀YMCA	9月25日	7人
さつまいも収穫祭	YMCA八坂農園	10月26日	20人
YMCA/YWCA合同祈祷集会 「ジェンダー平等を実現するために」 お話:滋賀蒲生野Y's 管井恵子氏	滋賀YMCA	11月11日	13人
理事会		11月13日	5人
YMCAちびっこ市民クリスマス	滋賀県立大学	12月8日	
理事会・評議員会	滋賀YMCA	12月11日	16人
近江八幡市民クリスマス	G-ネットしが	12月14日	148人
職員クリスマス礼拝	滋賀YMCA	12月20日	9人
職員共済会		1月13日	11人
近江八幡YMCA創立113周年記念会員集会 卓話「YMCAとヴォーリズさん～YMCAなくしてヴォーリズなし～」 お話:公益財団法人近江兄弟社 藪秀実氏	滋賀YMCA	2月10日	25人
YMCAピンクシャツデー	滋賀YMCA	2月26日	
滋賀YMCA創立70周年記念会員集会 懇親会・談話会	彦根勤労福祉会館	3月5日	9人
理事会	滋賀YMCA	3月18日	4人
卒業リーダー祝会	近江金田教会	3月22日	50人
評議員会	滋賀YMCA	3月25日	10人



会員総会



風の谷キャンプ場ワーク



風の谷キャンプ場ワーク



風の谷キャンプ場 OPキャンプ



全国YMCA総務担当者会(滋賀開催)



ピンクシャツデー

会員活動



街頭募金 台風19号・15号被災地支援街頭募金



音楽倶楽部発表会



近江八幡YMCA創立113周年記念会員集会



滋賀YMCA創立70周年記念日会員集会



リーダー卒業祝会



リーダー卒業祝会

出張・会議報告

出張内容・研修会内容	場所	日程	担当者
全国YMCA総主事会議	東山荘	4月17日	久保田展史
滋賀県キャンプ協会総会	水口公民館	4月21日	久保田展史・祝部康二
全国YMCA新総主事研修会	日本YMCA同盟	4月25日	久保田展史
近江八幡市国際協会評議員会	近江八幡市	5月24日	久保田展史・祝部康二
滋賀県キャンプ協会理事会	水口公民館	6月30日	久保田展史・祝部康二
全国YMCA総主事会議	東山荘	6月14日～15日	久保田展史
日本YMCA同盟協議会	東山荘	6月15日～16日	久保田展史
滋賀県国際交流推進会議	ピアザ淡海	7月4日	久保田展史
滋賀県国際協会講演会	ピアザ淡海	7月11日	久保田展史
滋賀県キャンプ協会理事会	水口公民館	8月25日	久保田展史・祝部康二
AIDS文化フォーラム	同志社大学	10月5日	久保田展史
全国YMCA総主事会議	茨城YMCA	10月8日～10日	久保田展史
中日本YMCA国際担当者会	大阪YMCA土佐堀	11月5日	久保田展史
全国YMCA総務担当者会	アンドリュース記念館他	11月6日～11月8日	大黒真佐実
中日本YMCA総主事会議	韓国 仁川、ソウル	11月19日～21日	久保田展史
滋賀県国際協会創立40周年記念講演会	ピアザ淡海	11月30日	久保田展史
YMCAちびっ子市民クリスマス	滋賀県立大学	12月8日	徳田 望
近江八幡市民クリスマス	G-NETしが	12月14日	大黒真佐実
滋賀YMCA・京都YMCA合同スキーリードアートレーニング	志賀高原	12月13日～16日	久保田展史 國宗賢太郎 小寺智也
滋賀YMCA・京都YMCA合同リトルキッズスキーキャンプ	志賀高原	12月26日～30日	小寺智也
滋賀YMCA・京都YMCA合同中高生・チャレンジスキーキャンプ	志賀高原	12月24日～30日	國宗賢太郎
中日本YMCA国際担当者会	大阪YMCA	1月8日	久保田展史
滋賀県旅行業協会年次総会	守山 ライズヴィル都賀山	1月10日	久保田展史
鹿児島YMCA創立10周年記念式典	ジェイドガーデンパレスホテル	1月18日	久保田展史
中日本YMCAスタッフ研修会	六甲山YMCA	1月20日～21日	久保田展史 竹内秀和 新保賢二
滋賀県キャンプ協会理事会	希望が丘文化公園青年の城	1月28日	久保田展史
全国YMCA総主事会議	東山荘	2月4日～6日	久保田展史
滋賀県キャンプ協会交流事業	甲南青少年センター	2月9日	久保田展史
中日本エリアセーフティー担当者会	大阪YMCA	2月17日～2月18日	川瀬由起子
中日本YMCA総主事会議	大阪YMCA	2月22日	久保田展史



第4回インターナショナル・チャリティーラン2019



近江八幡市民クリスマス

対外指導

日 程	対 象	指導内容	担当者
5月22日	桐原幼稚園	縄跳び指導	小寺智也
6月22日	八幡幼稚園	親子ふれあい遊び	國宗賢太郎・小寺智也
7月3日	武佐こども園	運動遊び	國宗賢太郎
10月2日	桐原幼稚園	運動遊び	小寺智也
10月17日	武佐こども園	縄跳び指導	國宗賢太郎
10月18日	岡山幼稚園	運動遊び	國宗賢太郎
10月21日	岡山幼稚園	運動遊び	小寺智也
10月23日	馬淵幼稚園	運動遊び	小寺智也
10月24日	八幡幼稚園	縄跳び指導	國宗賢太郎
10月30日	桐原幼稚園	縄跳び指導	國宗賢太郎
11月6日	八幡幼稚園	親子ふれあい遊び	小寺智也
11月7日	桐原幼稚園	サーキットを楽しもう	國宗賢太郎
11月8日	桐原幼稚園	サーキットを楽しもう	國宗賢太郎
11月11日	桐原幼稚園	サーキットを楽しもう	小寺智也
11月13日	八幡保育所	縄跳び指導	小寺智也
11月15日	八幡保育所	運動遊び	小寺智也
12月18日	武佐こども園	ふれあい遊び・運動遊び	國宗賢太郎
2月12日	金田幼稚園	運動遊び	小寺智也
2月13日	水口幼稚園	運動遊び	國宗賢太郎
2月21日	桐原保育所	運動遊び	國宗賢太郎

対外奉仕・委員会

○理事 (YMCA関係)	久保田正紀	日本YMCA同盟代議員	
○職員	久保田展史	日本YMCA同盟代議員	全国YMCA総主事会議構成員
		中日本YMCA総主事会議構成員	滋賀県キャンプ協会副会長
		全国YMCA国際担当者会構成員	近江八幡市国際協会評議員
	祝部康二	滋賀県キャンプ協会参与	近江八幡市国際協会理事・副会長
	徳田 望	全国YMCA英語教育推進会議構成員	日本英語検定協会「実用英語技能検定試験」実施委員
	大黒真佐実	全国総務担当者会構成員	全国YMCA ICT担当者会構成員
		全国YMCA発達支援事業部会構成員	全国YMCAブランディング担当者会構成員
	川瀬由起子	日本英語検定協会「実用英語技能検定試験」実施委員	近江八幡市民クリスマス実行委員
		全国YMCAエリアセーフティー担当者会構成員	全国YMCA The YMCA通信員
	國宗賢太郎	日本英語検定協会「実用英語技能検定試験」実施委員	
全国YMCA野外活動事業部会構成員		全国YMCAウエルネス担当者会構成員	
新保賢二	全国YMCAインターナショナル・チャリティーラン構成員		
	全国YMCAチャイルドケア構成員		

役員・委員・職員

理事会	理事長	久保田正紀
	副理事長	横田明典
	常務理事	久保田展史
	理事	マーレー寛子、祝部康二
	監事	青山茂和、坂井 繁
評議員会	議長	浅岡徹夫
	評議員	岡田定一、柴田 謙、三原茂靖、池田政弘、戸所岩雄、井之上温代、持田和夫、増田ひとみ、安川千穂、小川章夫、深見祥弘(2020年3月25日付退任)、藪 秀実(2020年3月26日付就任)、徳田 望
委員会 [○=委員長]	キャンプ場運営委員会	○外海清圭、前川幸久、柴田 謙、馬場潤治、伊藤文訓、北村正隆、持田和夫、浅岡徹夫、池田政弘、久保田正紀、富田恵一、江畑 明 (事務局:久保田展史、國宗賢太郎)
	総会構成員検討委員会	○林 宏一、前川幸久、持田和夫、浅岡徹夫、池田政弘、三原静江、小川章夫 (事務局:久保田展史)
	第4回滋賀YMCAインターナショナル・チャリティーラン実行委員会	○池田政弘、安田博彦、鈴木康雄、西川裕介、河越尚博、矢守昭男、大脇正美、宮本年博、西野佐治郎、岡村遍導、三原茂靖、藪 秀実 (事務局:久保田展史、祝部康二、國宗賢太郎、大黒真佐実)
職員	総主事	久保田展史
	顧問	祝部康二(2020年3月31日付退職)
	主事	徳田 望(2020年3月31日付退職)
	指導職	大黒真佐実
	指導職	國宗賢太郎
	指導職	小寺智也
	指導職	新保賢二(2019年4月1日付採用)
	総務	竹内秀和(2019年5月1日付採用)
	事務職	川瀬由起子
	嘱託	片岡幸恵
	嘱託	門池洋子
	嘱託	浅野陽子(2019年5月1日付採用)
	嘱託	田原 稔(2019年4月1日付採用)
嘱託	松本桂子(2019年8月19日付採用)	

講師一覧

富江明子	土居きぬ江	谷口和美	Elma Cruz
原野尚起	今井友子	佐藤明子	Shirley Cantaros
小山陽子	小林明子	成瀬昌子	David Wybenga
里 且幸	守谷久代	西堀えみ里	David Smedley
奥野 隆	稲垣正司	水上和美	Michael Yuen
河崎 環	古賀風香	尾崎シルビア	Myra Bernabe
西村祐美	三輪めぐみ	吾藤早桜	Cristina Ishikawa
			Sherren Takano

順不同

OPリーダー

大賀雄介
池野真生
益田恒輝
杉本拓央
松本夏樹
山部直也
沖本 怜

寺川絵理
川上めぐみ
堀部夏未
西田紗代子
松本邦稔
澤山奈里

スキー委員会

福永博昭
福永 修
川口智子

成人ボランティア

安田博彦
持田和夫
楠亀清司
久米聖子

トラのパンツ

(ストーリーテリング)
門池洋子
小林亜希子
岡田幸代

順不同

寄付者一覧

近江八幡ワイズメンズクラブ
彦根シャトーワイズメンズクラブ
草津ワイズメンズクラブ
近江兄弟社グループ

島野喜道
管井恵子

岡崎光子
持田和夫

彦根ワイズメンズクラブ
長浜ワイズメンズクラブ
滋賀蒲生野ワイズメンズクラブ

岡崎利彦
小林哲夫

順不同

総会構成員名簿(2020年会員総会)

久保田正紀
久保田展史
柴田 謙
井之上温代
小川章夫
宮本年博
三原静江
松原基夫
永芳 亨
川上 潔
西川裕介
北村正隆
矢守昭男
松本邦稔
澤山奈里
酒井真凜
谷川弘樹
堀田萌夏
國宗賢太郎
竹内秀和

横田明典
青山茂和
池田政弘
持田和夫
増田ひとみ
安田博彦
合志禎子
管井恵子
島野喜道
藪 秀実
八木ふよう
祝部治子
中山博文
寺川絵理
三谷 喬
吉本芙優美
伊藤愛都
奥村 悠
川瀬由起子
池野真生

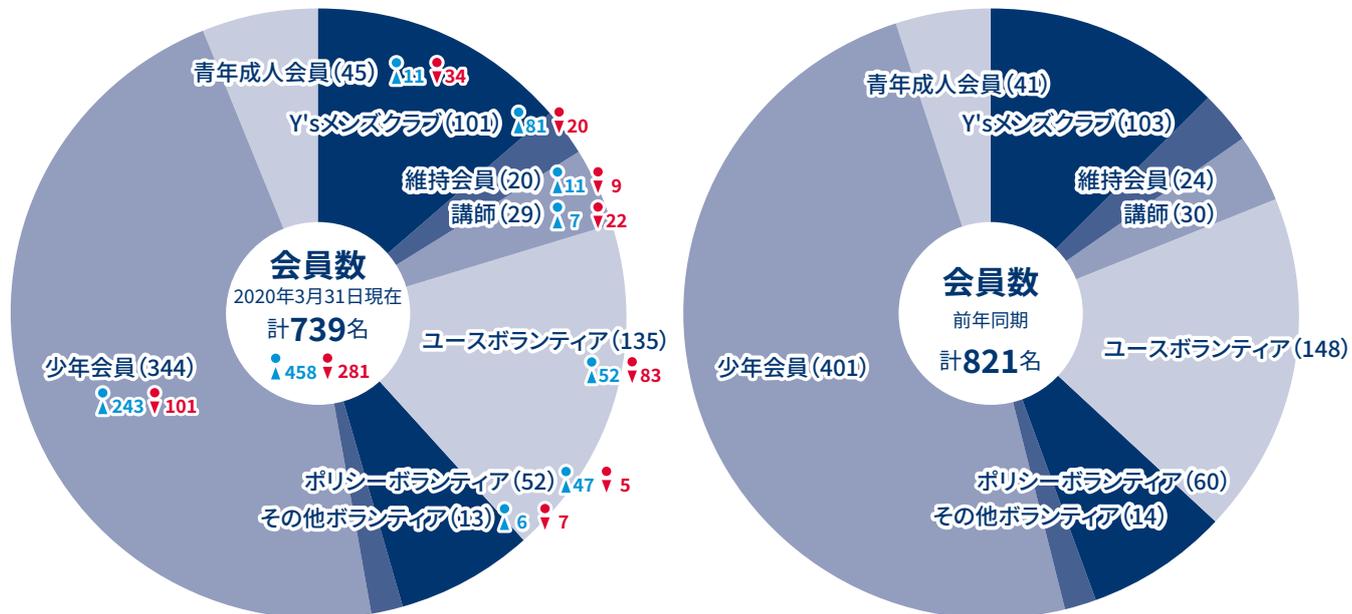
マーレー寛子
坂井 繁
岡田定一
三原茂靖
伊藤文訓
檜山秋彦
西川 允
堀江 宏
里 且幸
大道重夫
瀬間恭子
太田美智代
江畑 明
堀部夏未
金澤芳夫
門脇真斗
池田百香
池上裕貴
小寺智也
西堀えみ里

祝部康二
浅岡徹夫
戸所岩雄
安川千穂
徳田 望
前川幸久
外海清圭
堀江芙美
北脇 昇
岩崎正俊
東 康彦
安澤 勝
川橋好栄
益田恒輝
大場千聖
小林 聖
町田知可
大黒真佐実
新保賢二

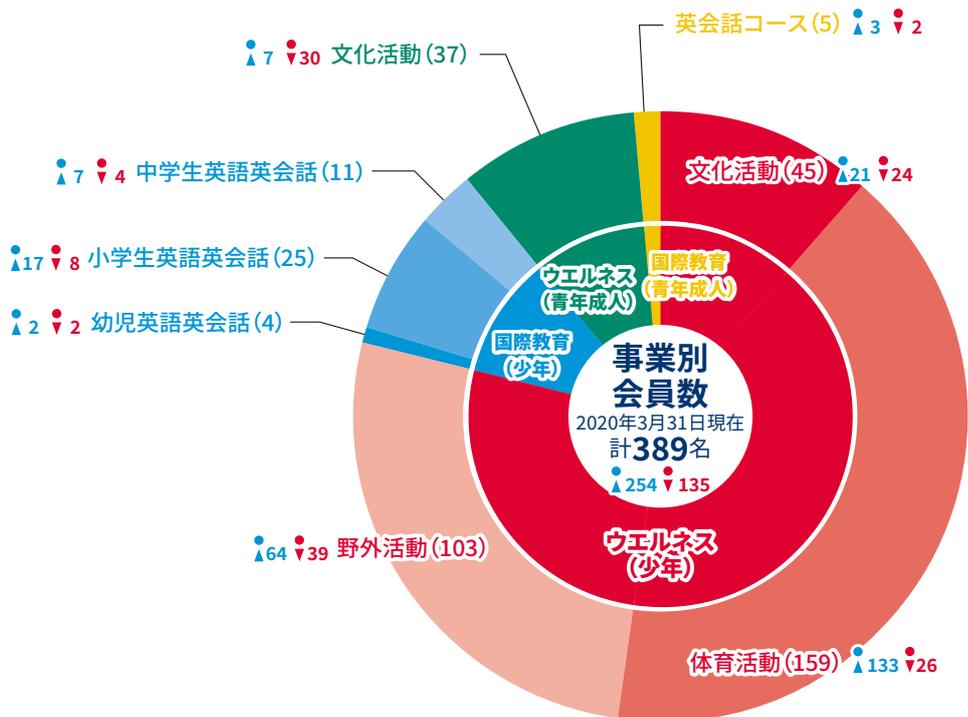
順不同

DATA 2019

会員数 (2020年3月31日現在)



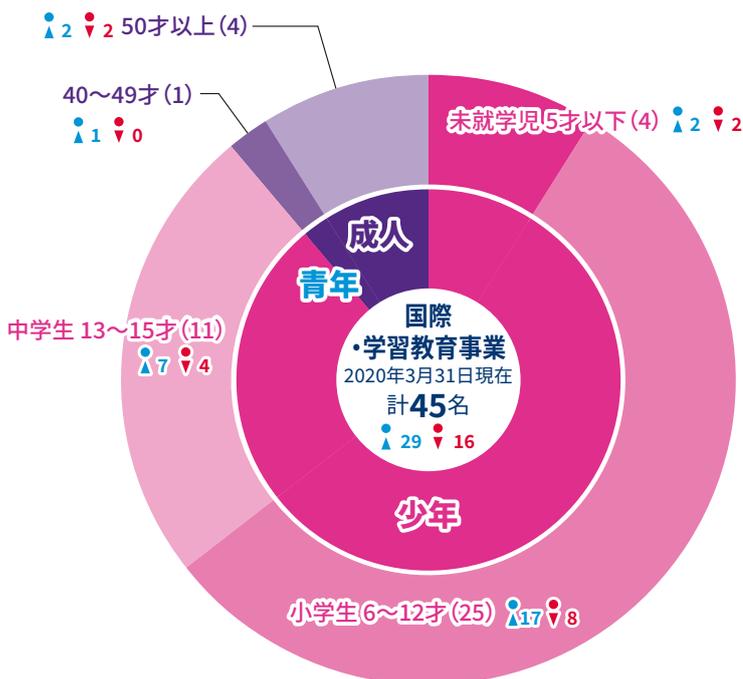
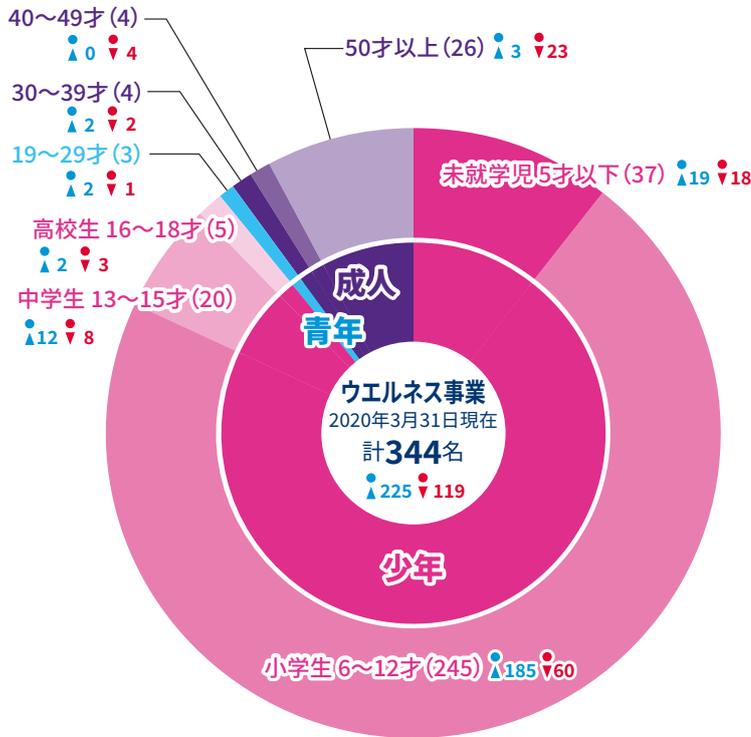
事業別会員数 (2020年3月31日現在)



クラス数

ウエルネス (少年)	文化活動	11
	体育活動	18
	野外活動	4
国際教育 (少年)	幼児英語英会話	2
	小学生英語英会話	6
	中学生英語英会話	4
	高校生英語英会話	0
ウエルネス (青年成人)	文化活動	14
	体育活動	0
	野外活動	0
国際教育 (青年成人)	英会話コース	5

年齢別活動参加者数(2020年3月31日現在)



キャンプ参加者数統計

(2019年4月7日~2020年5月6日)

		全 体	
		18年度	19年度
夏休み	風の谷キャンプ	426	374
	エンジョイマリンキャンプ	9	6
	ダイナミックマリンキャンプ	31	43
	八ヶ岳キャンプ	24	/
	関西YMCA合同 富士山キャンプ	1	2
	English Camp	4	14
	デイキャンプ・その他	35	29
小 計		530	468
冬休み	志賀高原スキー	33	34
	オコジョ・トナカイスキー(日帰り)	57	35
	ホップ・ステップ・ジャンプスキー(1泊)	38	27
	スノーマジック	8	6
	チャレンジウィンター	5	/
	エンジョイウィンター	18	/
	野外特別例会	/	31
	ペンギン・シロクマ(スケート)	16	7
	デイキャンプ・その他	19	/
	小 計	194	140
春休み	志賀高原スキー	28	中止
	海を楽しもう	22	中止
	ペンギン・シロクマ(スケート)	11	中止
	春の特別デイキャンプ	15	23
	はじめて野外	31	13
	小 計	107	36
合 計		963	831

*2019年度より志賀高原スキーは京都YMCAと合同で行っています。

*新型コロナウイルスの影響により、2019年度春プログラムは中止となっています。中止後、「春の特別デイキャンプA~D」を企画し行っています。

ウエルネススクール・講習会参加者数統計

(2019年4月7日~2020年5月6日)

		全 体	
		18年度	19年度
	サマープログラム	66	48
	ウィンタープログラム	50	28
	スプリングプログラム	4	8
合 計		120	84

*サマープログラム・ウィンタープログラム・スプリングプログラムには館内でシーズンごとに行われる講習会・書道・スポーツクラス・短期学童などが含まれる。



みつかる。つながる。よくなっていく。

一般財団法人 滋賀YMCA

〒523-0891 近江八幡市鷹飼町537-3 Tel 0748-33-2420 Fax 0748-34-8230 E-mail omihachiman@shigaymca.org